

令和 7 年度事業について

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

法人の概況

- 1 : 名称等 公益社団法人日本植物園協会
Japan Association of Botanical Gardens (略称 JABG)
- 2 : 設立等 昭和 22 年 5 月 1 日任意団体として発足
昭和 41 年 4 月 11 日社団法人になる
平成 25 年 4 月 1 日付けで公益社団法人に移行
- 3 : 目的等 全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園及び植物に関する文化の発展
と科学技術の振興並びに自然環境の保全に貢献し、人類と自然が共生する豊
かで持続的な社会の実現に寄与することを目的とする。
(定款第 3 条)
- 4 : 事業内容 定款第 3 条の目的を達成するため次の事業を行う。(定款第 4 条)
 (1) 植物園及び植物に関する調査・研究及び資料収集
 (2) 植物園及び植物に関する教育並びに普及啓発
 (3) 植物多様性の保全活動
 (4) 植物園に関する支援
 (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 5 : 監督機関 内閣府公益認定等委員会
- 6 : 事務所所在地 〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201
- 7 : 公益目的事業
 公 1 植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献
 するための調査及び研究
 公 2 植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発
- 8 : 収益事業等 なし

公益目的事業の実施状況

I：植物園及び植物に関する科学技術の振興や自然環境の保全と文化の発展に貢献するための調査及び研究（公1）

(1) 調査及び資料収集

1. 海外事情調査

実施なし

2. 植物園概要調査

令和6年度調査データを一部情報更新

3. 国際機関との連携協力

国際会議等への協会派遣は実施なし

(2) 生物の多様性保全

1. 植物多様性保全事業

(1) 植物多様性保全 2030 年目標

- ・ 令和6年度策定の植物多様性保全 2030 年目標について 60 回大会で報告、協会ホームページに公表

(2) 植物多様性保全拠点園ネットワークの活動

- ・ 植物多様性保全拠点園ネットワーク分科会会議（8 月 22 日、オンライン）
- ・ 植物多様性保全拠点園の再募集を実施した（27 園が登録）
- ・ 絶滅危惧種の特性調査と種子収集を実施（環境省連携事業内での実施含む）
- ・ 種子保全拠点園（新宿御苑、沖縄美ら島財団、武田薬品工業(株)京都薬用植物園）で絶滅危惧植物の種子保存を実施
- ・ 絶滅危惧植物の種苗交換について、7 園からのべ 32 種類の提供を受けて斡旋
- ・ 各拠点園の活動報告を『植物多様性保全事業年次報告 2025』として刊行、配布（400 部）
- ・ 東日本地域の拠点園による茨城県における種子収集および自生地調査（9 月 29 日）
- ・ 第 6 回中部植物多様性保全拠点園連絡会議を東山植物園で開催（10 月 6 日）

(3) 日本植物園協会植物情報システム（＝データベース）

- ・ 植物特性データベースの復旧作業（現在調整中で公開していない）
- ・ データベース研修会を新宿御苑で開催（10 月 27 日、13 施設 15 名参加）、「植物個体管理データベース」に関する修正作業、マニュアル更新作成、公開版運用の開始（環境省連携事業内で実施）

(4) 絶滅危惧植物保有状況調査

- ・ 第 5 回絶滅危惧植物保有状況調査の結果を 60 回大会にて報告。

(5) 外来植物対策

- ・ 外来害虫チュウゴクアミガサハゴロモ、特定外来生物オオキンケイギクの注意喚起チラシを配布（各 1,000 部）
- ・ 日本植物園協会誌 60 号別冊 60 周年記念号に「日本植物園協会における外来種対策分科会の発足と活動」を執筆、掲載

(6) 環境省との協定に基づく連携事業

- ・「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」の一部変更（令和 7 年 5 月 20 日付）
- ・「希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」の実施
- ・「絶滅危惧種および国内希少種の生息域外保全に関するアンケート」への協力
- ・令和 7 年度生物多様性保全の推進に関する連絡調整会議（3 月 16 日）

(7) 環境省連携事業（委託業務）

29 年度から継続。環境省より「令和 7 年度希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務」を受託し、当協会の「環境省連携事業」として実施した。業務は植物多様性保全委員会内に設置した環境省連携事業分科会が担当し、事業推進にあたった。委託業務は以下 4 項目。①「国内希少野生植物種等の生息域外保全手法の検討」では 26 種（うち国内希少種は 6 種）について検討を実施、②「国内希少野生植物種等の生息域外保全」では 17 種（国内希少種は 3 種）の種子等を自生地または施設内で採取し、生息域外保全を行った。①②を実施した会員園は 6 園、①②各 10 種について公開用資料を作成、②は十分に数がある場合は種子を種子保存拠点園で管理した。③「種子保存に関する検討」は、超低温の種子保存施設を持つ沖縄美ら島財団に業務を再委託して実施した。④「生息域外保全情報管理システムに関する検討業務」では、オンラインデータベース維持管理・改善、研修会開催等を実施、「植物個体管理データベース」の公開版運用を開始した。一部作業は憐緑生研究所に再委託した。令和 7 年度委託費 7,601,470 円

(8) 「オガサワラグワ里親計画」共同事業の推進

- ・オガサワラグワの生息域外保全を里親となっている植物園で継続実施。

2. ワシントン条約にかかる寄託管理事業（委託業務）

経済産業省との「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）に基づいて任意放棄され、取得した植物に係る保護及び育成の寄託管理契約」に基づき、経済産業省から寄託された植物の保護育成を行った。本事業は平成 7 年から継続しており、令和 7 年度に寄託植物として受け入れた植物数は 216 株だが、状態の悪い株が多く移送直後の枯死 70 株程度あった。令和 7 年度末の保護育成管理園 25 園・総保護数 2,850 株。令和 7 年度寄託費 3,089,016 円

3. 植物資源の維持と活用の促進

(1) 種苗交換事業

12 月 26 日に種苗交換植物リストと絶滅危惧植物種の種苗交換リスト募集を通知し、各園から集まった情報を、「種苗交換リスト」として 2 月に正会員 118 園に配布した（提供園数 24 園、分譲可能品目数 230：品目数は配布リスト掲載種のみ）

(2) ナショナルコレクション事業

委員会2回開催、協会ホームページにコレクション一覧を掲載、第23号の認定証授与、第3回ナショナルコレクション情報交換会、新規申請審査、再認定審査、その他情報収集等を行った。

①認定証授与（60 回大会時）

第 23 号「江戸時代に作出されたクルメツツジ」 一般財団法人久留米市みどりの里づくり推進機構久留米市世界つつじセンター（福岡県）

②新規認定

第 24 号「京都府立植物園のヘリテージツリーズ（歴史遺産樹木）」 京都府立植物園（京都府）

③更新認定（60 回大会時報告）

第 4 号「兵庫県立フラワーセンター ストレプトカーパス属コレクション」 兵庫県立フラワーセン

ター（兵庫県）

第5号「兵庫県立フラワーセンター ウツボカズラ属の原種の系統保存コレクション」 兵庫県立フラワーセンター（兵庫県）

第6号「江戸時代の奇品植物」 浜崎 大（埼玉県）

④更新認定（理事会承認）

第7号「変わり葉ゼラニウム品種群」 公益財団法人広島市みどり生きもの協会 植物公園（広島県）

⑤普及活動

60回大会でポスター掲示、2025年11月27日に神代植物公園開催の植物園シンポジウム「江戸の伝統園芸」内で事業紹介、同日、第3回ナショナルコレクション情報交換会を神代植物公園で開催した（参加者：対面16名＋その他オンライン参加）

⑥情報公開

- ・協会ホームページに、旧協会ホームページからコレクション一覧を移動して掲載、新規認定（23号）コレクションのプレスリリースを掲載した
- ・協会誌60号報告記事「2024年～2025年認定日本植物園協会ナショナルコレクション」
- ・日本植物園協会誌60号別冊60周年記念号に「日本植物園協会ナショナルコレクション認定制度—未来への植物遺産—」を執筆、掲載

(3) 学術や文化の振興

1. 研究会・講習会・分野会議・その他

(1) 第1回植物研究会

担当：咲くやこの花館

期日：令和7年9月12日（金）～13日（土）

参加者：34名（正会員17施設、賛助会員等）

内容：講演、食虫植物ライブ解説、エルフガーデン紹介、咲くやこの花館「虫を食べる植物展」見学、バックヤード見学、意見交換会

講演「植物園で役立つ食虫植物の知識」

長谷部 光泰（基礎生物研究所 教授）

※その他、咲くやこの花館に設置された、日本植物園協会60周年事業の創立記念樹チャボトウジュロの銘板紹介を行った

(2) 第1回技術者講習会

プログラム：「植物園イベントでの応用を目指す草木染め講座」

期日：令和7年8月26日（火）

会場：草木工房（神奈川県川崎市麻生区片平7-15-1）

講師：草木工房・山崎 和樹

担当：北里大学薬学部附属薬用植物園

参加者：正会員14名、賛助会員2名

身近な植物を用いた草木染めワークショップが植物園で実践可能になることを目的として、草木工房主宰である山崎和樹先生に講師を依頼し、技術者講習会を実施した。

(3) 分野別会議

□第1回目は各分野とも60回大会開催時（浜松市）に実施した。

■第1分野（第61回国立大学植物園長会議・植物園協会第一分野拡大施設長会議）

担当：大阪公立大学附属植物園（オンライン）

期日：12月19日（金）

参加者：6施設7名

各園での現状や問題点報告。令和8年度開催担当は金沢大学となった。また、次年度の植物研究会・技術者講習会は第1分野では開催しないことになった。その他、協会活動に関する要望等（海外事情調査渡航先、新たな事業創設）に関する意見交換を行った。

■第2分野（第42回国公立植物園運営会議）

開催担当の植物園の事情で中止

■第3分野

担当：小田急 山のホテル

期日：12月3日（火）～13日（水）

参加者：9施設17名

会議では、最近の各施設の活動や新たな取り組み等について意見交換を行った。SNS発信の苦労や対策強化での工夫、2027年のGREEN×EXPOなどについても議論した。次年度の開催担当は六甲高山植物園の予定。

視察先：大涌谷、山のホテル(庭園)、箱根湿生花園、強羅公園、小田原フラワーガーデン

■第4分野

期日：令和7年9月13日（土）

開催場所：崇城大学薬学部（第71回日本生薬学会会場）※「第4分野会議」と「教科担当会議・第4分野会議と合同意見交換会」として実施

参加者：23園36名

会議では、各園の運営状況やトピックの話題提供があり、「台所の薬草ガイドブック」進捗報告と写真提供依頼を行った。60周年記念誌については日大・松崎園長が担当に決定した。また、同日、京都薬科大学薬用植物園開設100周年記念シンポジウムが崇城大学で開催され、参加した。

2. 研究成果の発表

(1) 公益社団法人日本植物園協会第60回大会

担当：はままつフラワーパーク

会期：令和7年5月27日(火)～29日(木)

会場：アクトシティ浜松コンgresセンター（静岡県浜松市中央区）

・60周年事業 植物園交流会

「もっとつながる植物園に～私たちはウェルビーイングにどう貢献できるか～」

（講演2題、事例報告3題）

・開会式、表彰式（協会表彰6名）、ナショナルコレクション認定証授与式（授与1件）

・意見交換会

・60周年事業 記念講演「はままつフラワーパークの取組み～多様化する植物園経営～」

理事長 塚本こなみ（公益財団法人浜松市花みどり振興財団）

・研究発表会（口頭発表5題、ポスター発表14題）

・分野別会議

・第60回定時総会（委員会報告、海外事情調査「ニュージーランド」報告）

・植物園研修：はままつフラワーパーク、浜名湖ガーデンパーク（2コースに分けて実施）

3. 調査研究誌の発行

- ・日本植物園協会誌 第60号

令和8年3月発行（A4判120ページ 480部）。特集として令和7年度に実施した「日本植物園協会60周年事業」を掲載し、60周年事業の実施内容を紹介した。会員への配布と都道府県立図書館への寄贈を行った。

- ・日本植物園協会誌第60号別冊 60周年記念号「生命をつなぐ植物園をめざす」

令和8年3月発行（A4判140ページ 1,000部）。「60周年事業の記念誌」を協会誌60号別冊として発行した。当初は単独の雑誌として発行予定だったが、協会誌と同じISSN番号で識別される雑誌として発行。担当は、研究発表委員会に設置した60周年記念出版分科会。会員、関係者、関係団体等への配布や都道府県立図書館等への寄贈は令和8年度に行う。

II：植物の栽培や自然環境の保全等についての教育及び普及啓発（公2）

(1) 講演会・シンポジウム・展示会

1. シンポジウム、講演会

- ① 第24回植物園シンポジウム 日本の植物園遺産—伝統園芸植物「江戸に花開いた園芸文化」

日時：令和7年11月23日（日）

会場：神代植物公園（東京都調布市）

参加申込人数：会場100名、ウェビナー300名以上

内容：日本の植物園遺産として、現代に受け継がれる伝統園芸植物をテーマに、その魅力や価値を伝えるシンポジウムを開催した。タイトルは「江戸に花開いた園芸文化」とし、当協会設立60年を祝うイベントと位置づけ、関連分野の専門家の話題や日本植物園協会の取組を紹介し、貴重な植物の保全について普及啓発を行った。

シンポジウムでは、江戸の出版物を通じて一般庶民も夢中になった園芸植物の魅力を小笠原左衛門尉亮軒氏が（動画出演）、江戸の出版メディアと園芸文化について豊島区立郷土資料館の秋山伸一氏が、江戸椿の歴史と魅力について日本ツバキ協会の小泉不二男氏が一般向けに分かりやすく講演を行った。また、日本植物園協会が取り組むナショナルコレクション認定制度や会場である神代植物公園の伝統園芸植物の保全の取組について紹介した。会場外では、『花壇地錦抄』『草木錦葉集』などの江戸の園芸書を展示し、テーマへの理解を深めた。また、2027年に迫った国際園芸博覧会の紹介を行った。

シンポジウム後も利用できる資料として16ページにわたる冊子を制作し、参加した市民と植物園関係者に配布したほか、全国の植物園や関係団体を通じて、幅広い市民に配布した。

※このシンポジウムは、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成をうけて開催した。

- ② 3団体連携による共催事業「自然と人間との共生フォーラム」

名称：第4回自然と人間との共生フォーラム「都市生態系 ～都市に生息する生きものたち～」

主催：公益社団法人日本植物園協会、公益社団法人日本動物園水族館協会、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（開催担当：公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会）

会場等：オンライン（Zoom ウェビナー） 3月10日（火）14時～16時

後援：日本生態学会、植生学会

参加登録人数：411名

1. 基調講演 「都市の自然を問いなおす」

横張 真 氏（東京大学総括プロジェクト機構特任教授）

2. プレゼンテーション

「ミツバチが都市（まち）の生態系を豊かにする」

藤本 裕昭 氏（NP0 法人梅田ミツバチプロジェクト 副理事長）

「動物園の森で暮らす生き物」

先崎 優 氏（横浜市立金沢動物園 飼育展示係）

「都市における社寺林の役割」

名波 哲 氏（大阪公立大学附属植物園 園長）

3. パネルディスカッション

コーディネーター：前迫 ゆり 氏

（奈良佐保短期大学 教授・副学長、奈良女子大学共生科学センター協力研究員）

パネリスト：上記プレゼンテーション3氏

(2) 普及啓発資料の発行

1. ガイドブック、書籍等

・日本植物園協会第4分野が作成した『薬草ガイドブック』シリーズの頒布により、児童生徒、学生、幅広い市民への知識向上や薬用植物を中心とした植物と文化に関する普及啓発を継続して実施した。

「台所の薬草ガイドブック」改訂作業を継続（令和8年5月発行予定）

2. ニュース等広報物の配布

協会ホームページお知らせを使った情報発信（21件）

(3) 普及啓発資料の提供

1. パネル・データ貸出

- ・外来種対策チラシのデータ提供、教育普及に関するワークシートのデータ提供
- ・植物園オンラインツアー事業：「植物園の花見旅 2025」の動画公開（13施設が参加）

2. 教育普及ワークショップ

「第9回教育普及ワークショップ」

日時：令和8年2月9日～10日

会場：神奈川県立大船フラワーセンター

参加者：33名

テーマ「植物園におけるツアーとプロモーション戦略」

- ・園長さんば体験

ワークショップ1「人を惹きつけるツアーを考えてみよう」

- ・メディア担当者と考える 植物園PR大作戦！

ワークショップ2「イベントのプロモーションを考えてみよう」

(4) キャンペーン

1. 日本植物園協会60周年事業

テーマ（スローガン）：「もっとつながる植物園に」

「つながる」をキーワードに4つの主テーマ（植物をつなぐ、環境をつなぐ、社会をつなぐ、植物園を

つなぐ)に基づき、60周年事業委員会を中心に、60周年事業を展開した。

○日本植物園協会第60回大会時の事例発表会及び講演

- ・植物園交流会 「もっとつながる植物園に～私たちはウェルビーイングにどう貢献できるか～」
- ・60周年記念講演 「はままつフラワーパークの取組み～多様化する植物園経営～」

理事長 塚本こなみ（公益財団法人浜松市花みどり振興財団）

○日本植物園協会の創立記念樹に関する事業

- ・日本植物園協会創立記念樹チャボトウジュロの銘板を2か所に設置した（宝塚市立文化芸術センター、咲くやこの花館）

○普及啓発に関する事業

- ・ミュージアムグッズとして植物園で販売する60周年記念の植物ぬいぐるみの企画、販売斡旋を株式会社栄商に協力いただいて実施した

○60周年記念誌の発行

- ・日本植物園協会誌第60号別冊 60周年記念号「生命をつなぐ植物園をめざす」

令和8年3月発行（A4判134ページ 1,000部）。60周年記念誌を協会誌60号別冊として発行した

2. 「植物園の日」（5月4日）事業

個々の植物園でのSNS投稿に共通ハッシュタグをつけることを周知し、広報活動を実施した。

3. 絶滅危惧植物マーク広報

各植物園で継続的に活用

4. 自然災害被災地支援事業

実施なし

5. YouTube 公式チャンネル

YouTubeに設置した公式チャンネルで、当協会事業及び植物園への理解を深め、植物園のPRの向上を図ることを目的に情報発信（植物園オンラインツアー等）を継続して実施した。

(5) 表彰

1. 表彰

協会表彰規程に基づき選考を行い、第60回大会時に表彰式を行った。

【木村賞】

朝井 健史 氏（姫路市立手柄山温室植物園）

朝井健史氏は、手柄山温室植物園において、花壇や見本園、温室の維持管理や展示会の開催などに従事する一方、サギソウ栽培方法として通年開花技術の確立、繁殖生態の研究、新たな生育地の発見と保全など、サギソウに関する研究で顕著な業績を残してきた。また地域の学校教育や保全活動にも取り組み、園芸に関する教育普及活動やボランティアの育成にも尽力しており、植物園職員として、長年、模範的な活躍をしてきた。以上の功績は特に優れたものであり、木村賞に値するものである。

【植物園功労賞】

高柳 重光 氏（公益財団法人浜松市花みどり振興財団）

高柳重光氏は、浜松市花みどり振興財団の前身である浜松市フラワーパーク公社に入職以来、はま

まつフラワーパーク、はままつフルーツパークにおいて、40 年以上にわたり、温室花卉の育成、花壇管理、樹木管理、果樹管理展示などの植物に関する業務のほか、植物園の運營業務、校外学びの教室担当として「花育」指導等、さまざまな形で植物園事業に尽力してきた。また、定年退職後も植物管理業務に加え、後進の指導にも力を入れている。以上の功績は、植物園功労賞に値するものである。

綾部 充（東京大学大学院理学系研究科附属植物園）

綾部充氏は、20 年以上にわたり、東京大学大学院理学系研究科附属植物園の日光分園および小石川本園において植物の育成栽培に尽力してきた。日光分園ではロックガーデンを中心とした園内植栽管理に携わり、特に日光分園が日本植物園協会植物多様性保全拠点園に認定されてからは、植物園周辺地域の市民の協力を得ながら絶滅危惧植物の種子採集等を進めるなど、地域の植物保護・保全活動に積極的に関わり、栽培方法が確立していない植物の栽培・増殖の実現と種子保存活動、日光地区の植物種の調査協力も行ってきた。以上の功績は、植物園功労賞に値するものである

【坂崎奨励賞】

佐藤 裕之 氏（一般財団法人沖縄美ら島財団）

佐藤裕之氏は、沖縄美ら島財団植物研究室に着任以来、琉球の絶滅危惧植物の生息域外保全や野生復帰技術開発に関する調査研究、沖縄産野生植物を活用した花卉園芸品種作出に関する調査研究等を行うとともに、作出した花卉類の品種登録により、種の保全と産業振興を両立させるなど地域の発展に貢献してきた。さらに沖縄県事業での培養技術を応用した熱帯果樹等の苗増殖の実務担当、環境省が進める生息域外保全事業の実務担当として尽力し、学会発表や講演等でその成果を公表するなど普及啓発にも積極的に取り組み、今後のさらなる活躍が期待される。以上の功績は、坂崎奨励賞に値するものである。

久保 晴盛 氏（広島市植物公園）

久保晴盛氏は、広島市植物公園において、樹木の導入・管理・展示企画・イベントの開催などの植物園管理業務を担当するとともに、植物全般に関する幅広い知識、専門であるコケ植物に関する知識を活かし、論文発表、学術雑誌等での報告、絶滅危惧種等の調査研究活動等を行ってきた。また、テレビ、新聞などのメディア取材に広報担当者として数多く対応し、植物園事業への一般の理解を深める活動に取り組んでいる。豊かな専門性と、それを土台とした普及事業等における活躍は、植物園の職員として模範となるものであり、将来にわたる植物園のけん引役としてさらなる活躍が期待される。以上の功績は、坂崎奨励賞に値するものである。

【保全・栽培技術賞】

「宮古島のホソバフジボグサの保全に関する研究」

一般財団法人沖縄美ら島財団 佐藤 裕之 氏、阿部 篤志 氏

宮古島市 佐藤 宣子 氏

一般財団法人自然環境研究センター 梅本 巴菜 氏

マメ科植物ホソバフジボグサは、日本国内でごく少数の個体のみが確認されていて、国内希少野生動植物種に指定されている。本研究グループは、生息域外保全に向けた育成技術の構築および野生復帰の技術開発を目的とした研究を実施し成果を公表している。以上の功績は、保全・栽培技術賞に値するものである。

- ・宮古島産ホソバフジボグサの生息域外保全における育成気温と施肥量の検討（日本植物園協会誌 56：50-55 に発表）
- ・宮古島におけるホソバフジボグサの野生復帰に向けた手法、時期の検討（日本植物園協会第 59 回大会〈2024 年水戸〉研究発表会：口頭発表）

その他法人の目的の達成に必要な事業

1. 後援及び協賛等

【協力】

①一般社団法人 日本公園緑地協会

令和7年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会

【後援】

①群馬県立自然史博物館

「ツツジとその仲間たち ―華麗にして奇妙な一族の話」

②フラワー・ブラボー・コンクール実行委員会

令和7年度フラワー・ブラボー・コンクール（FBC）

③新潟県立植物園

夢は叶えるもの ターシャ・テューダー 人生の軌跡展

④広島市植物公園

特別企画展「被爆樹木（被爆80年）」

⑤富山県中央植物園

特別展「花を知る、花を楽しむ」

⑥一般社団法人園芸学会

第32回国際園芸学会議（The 32nd International Horticultural Congress）（令和8年度開催）

⑦公益財団法人日本補助犬協会

第13回 もっと知って補助犬キャンペーン

2. ホームページ活用及び広報活動

ホームページの更新、報告記事等の充実を行った（ <https://jabg.or.jp/> ）

3. 諸会議

1. 第60回定時総会

日時 令和7年5月28日（水）

会場 アクトシティ浜松コンgresセンター

令和7年度臨時総会

日時 令和7年6月27日（金）

会場 オンライン会議

2. 役員会・委員会等

【理事会】

第1回通常理事会 令和7年6月27日（オンライン会議）

第2回通常理事会 令和8年3月11日（オンライン会議）

第1回臨時理事会 令和7年4月30日（決議省略）

第2回臨時理事会 令和7年6月18日（決議省略）

第3回臨時理事会 令和7年12月11日（オンライン会議）

【執行役員会】

令和 7 年 9 月 16 日（オンライン会議）

令和 8 年 2 月 26 日（オンライン会議）

【監査】

令和 7 年 4 月 23 日 栗山茂監事、恒任昌章監事による令和 6 年度事業についての監査実施

【委員会】

- ・研究発表委員会（メール会議）
 - 60 周年記念出版分科会（9 月 26 日オンライン会議、メール会議）
- ・植物多様性保全委員会（4 月 24 日オンライン会議、メール会議）
 - 外来種対策分科会（メール会議）
 - 環境省連携事業分科会（5 月 20 日オンライン会議）
 - 植物多様性保全拠点園ネットワーク分科会（8 月 22 日オンライン会議、メール会議）
- ・植物情報システム委員会（7 月 9 日オンライン会議）
- ・ナショナルコレクション委員会（8 月 23 日、2 月 24 日オンライン会議）
- ・国際交流推進委員会（メール会議）
- ・協会表彰候補者選考委員会（メール会議）
- ・植物園シンポジウム委員会（シンポジウム開催準備メール会議、オンライン会議）
- ・教育普及委員会（2 月 10 日、大船フラワーセンター）
- ・60 周年事業委員会（メール会議）

運営体制の充実を図るための取組

- ・適切な法人運営を行うために、理事会のほかに、代表理事と業務執行理事による執行役員会を 2 回開催し、事業進捗状況や予算執行の確認、今後の法人運営の検討課題を議論した。
- ・専務理事（常勤）辞任に伴い、後任の候補を検討した。
- ・次期役員改選の際の外部理事候補を決定、外部監事候補については候補者との調整を行った。
- ・会長が事務局職員に定期的に聞き取りを行い、事務局業務推進上の問題点・改善すべき点等を執行役員会で検討した。
- ・業務の属人化を解消するためのマニュアル化等を図るため、現在の業務項目のリスト化と業務内容・実施時期等の情報整理を事務局に実施させた（継続）。
- ・より適切な法人運営を行うため、規程類の課題の整理を行った。令和 7 年度は事務局の労働環境改善のため、給与規程を検討・修正した。
- ・従来の組織や事業を見直し、当協会事業のさらなる活性化を目的に「事業推進委員会（仮称）」新設の検討を行った。このなかで、直近の 2027 年開催の国際園芸博覧会に対応するプロジェクトチームとして、「植物園特別企画推進チーム」を令和 8 年 3 月に立ち上げた。

令和 7 年度事業報告 附属明細書

令和 7 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。